

不機嫌は環境破壊

渡辺和子さんのベストセラー『置かれた場所で咲きなさい』。本を読んだことがない人でも、「置かれた場所で咲きなさい」という言葉は知っているのではないだろうか。二・二六事件は渡辺さんが九歳の時に起きた。父親の渡辺錠太郎が襲撃され命を落としたのを至近距離で目の当たりにしたらしい。「不機嫌は立派な環境破壊」というのは、この渡辺和子さんの言葉である。

会議などで、いかにも不愉快そうな、機嫌の悪い人がいると、雰囲気が悪くなるものである。少人数の時はなおさらだ。当の本人よりも周りに及ぼす影響が大きい。「環境破壊」とは言い得て妙である。

「先生は機嫌が悪い日はすぐにわかる。そういう日は教室も暗くなる。」

ある生徒に言われた言葉である。こんな私だから人のことは言えないが、自分の感情がいかにか子どもたちに影響しているのか、教師はもつと考えた方がいい。特に朝の学活に行くときには、穏やかな顔で、できたら笑顔で行くことを勧める。板倉恒夫先生は、職員室にある鏡は、教室に行く顔を確認するためにおっしゃられていた。

伊那市出身の若いタレントの話聞いたことがある。写真に撮影される職業であるから、自分の顔はどの角度からかわいらしく見えるのか、どのような表情をすると印象がいいのか、鏡を常に見て研究しているそうである。それはプロとして当然であるし、第一歩である、という話である。成人したばかりの若い女性だが、職業人としての自覚をきちんと持っている。教師もプロである。子どもの前に立つ時には笑顔でいよう。

授業や学級経営、生徒指導の技術は未熟でも、努力次第で笑顔を作ることには可能だ。子どもは先生の実顔が大好きだし、先生の実顔でほっとするものだ。職員室から笑い声が聞こえるような学校は、子どもも楽しいだろう。